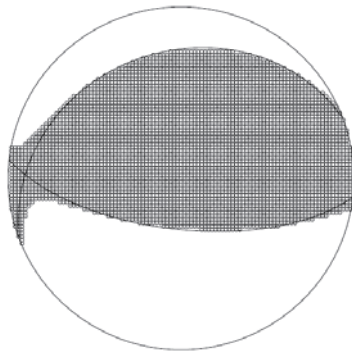


7月18日22時35分 ニューギニア付近の地震 (W-phase を用いたメカニズム解析)

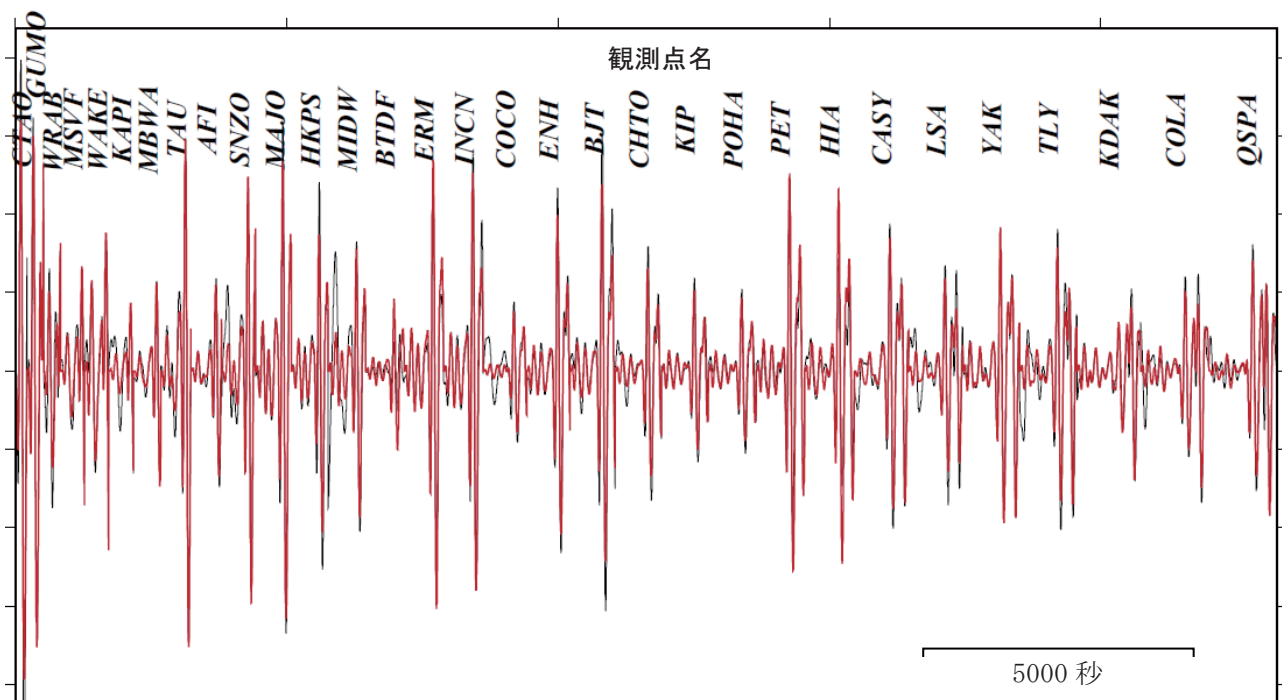
W-phase による解



2010年7月18日22時35分(日本時間)にパプアニューギニアのニューギニア付近で発生した地震について W-phase を用いたメカニズム解析を行った。震源位置は USGS の震源位置 (S6.019, E150.497, 深さ 57km) を用いた。メカニズム、Mw とも、Global CMT などの他機関の解析結果とほぼ同様であり、Mw は 7.3 であった。

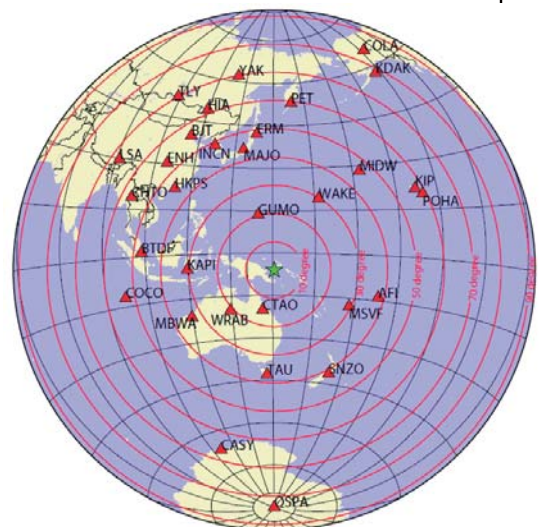
W-phase の解析では、震央距離 $10^{\circ} \sim 90^{\circ}$ までの 31 観測点の上下動成分を用い、100~300 秒のフィルターを使用した。

Mw7.3 (7.30)



— 観測波形
— 理論波形
(解析に用いたしたデータ範囲*のみ表示)

*解析に用いたデータの範囲は 15 秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。



解析に使用した観測点の位置 (▲)
と地震の震央位置 (★)

(W-phase に関する参考文献)
Kanamori, H and L. Rivera (2008): Geophys. J. Int., **175**, 222-238.

IRIS-DMC より取得した広帯域地震波形記録を使用した。また、解析に使用したプログラムは金森博士に頂いたものを使用しました。記して感謝します。